

4区遺構略図と主な出土遺物



これまでの4箇所の調査で、鎌倉時代から江戸時代の遺物が出土しました。

1区～3区では、ロクロ土師器皿、山茶碗、土師器鍋や皿、陶器鉢など、鎌倉時代から室町時代の遺物が見られました。

4区では、江戸時代の土坑群から、土師器焙烙をはじめ、瀬戸・美濃産の陶器茶碗などが多く出土しています。

また、煙管の雁首や吸口、火縄銃の弾とみられる鉛玉といった金属製の遺物、さらに白磁の紅小皿や鬚水入れといった装いに関わる陶磁器が出土したことが、他の調査区には見られなかった特徴と言えるでしょう。

調査遺跡名 : 小片野新田遺跡(第2次調査)
 所在地 : 三重県松阪市小片野町
 原因事業名 : 高度水利機能確保基盤整備事業(北谷地区)
 調査実施機関 : 三重県埋蔵文化財センター 〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503
 TEL:0596-52-1732 / FAX:0596-52-7035
<https://www.pref.mie.lg.jp/maibun/hp/>

かんえいつうほう
寛永通寶 (江戸時代)



せゆうとうき わん かたくちはち
施釉陶器 碗・片口鉢 (江戸時代)



ほうろく
焙烙 (江戸時代)



せゆうとうき かたくちはち
施釉陶器 片口鉢 (江戸時代)



のきまる のきひら
軒丸瓦と軒平瓦 (江戸時代)

はくしへにこざら
白磁紅小皿 (江戸時代)



びんみすい ひなわじゅうたま
施釉陶器 鬚水入れと火縄銃の弾 (江戸時代)

瓦廃棄土坑

土取坑

小片野新田遺跡 (第2次) 発掘調査 現地説明会資料

～松阪市小片野町～

2022(令和4)年10月22日
三重県埋蔵文化財センター



4区(西から撮影)

施釉陶器 片口鉢

三重県埋蔵文化財センターでは、高度水利機能確保基盤整備事業にともない、松阪市小片野町にある小片野新田遺跡の発掘調査を行っています。

小片野新田遺跡は、櫛田川中流の段丘上にあり、遺跡の東側から南側にかけて江戸時代の伊勢本街道と和歌山街道が通っています。小片野新田遺跡での第2回目の発掘調査では、室町時代から江戸時代の土坑や掘立柱建物などが見つかりました。また、土器や施釉陶器、煙管や銭貨などの遺物が出土しました。



遺跡位置図

国土地理院 1:25,000「横野」に加筆



主な遺構の時期	
■	鎌倉時代
■	室町時代
■	江戸時代

☆遺構…むかしの人々の生活の跡
☆柱間…柱と柱の間を「間」とよびます。

長楕円形の土坑を帯状に連続して掘削しています。



土坑群が見つかった時の様子。



2棟以上の掘立柱建物の柱穴が見つかりました。南北に長い建物とみられ、いずれの建物も柱間は南北2間(3.6m)以上、東西は2間(4.2m)を想定しています。



礎石の上に柱を立てた建物で、東西2間(3.8m)、南北3間(6.0m)が確認できました。



焼土とともに、瓦が廃棄されていました。



狭い調査区の中で、鎌倉時代の袋状に掘られた土取坑が確認できました。



山茶碗



山茶碗



室町時代の土取坑に重複して、江戸時代に土取坑を掘削し、その後、石積みの区画が作られていました。



東西に長い建物と柵。南の建物は柱間が東西に3間(6.9m)以上、南北に2間(5.2m)でした。

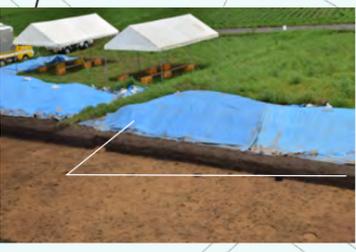


北宋銭



ロクロ土師器小皿

この柱穴の中から出土しました。



昨年度の調査1区

東西に長い建物の南面の柱穴が見つかりました。東西3間(6.6m)以上、南北は2間(4.4m)を想定しています。

昨年度の調査2区

今後の調査区

鎌倉時代～江戸時代の建物の柱穴や土坑などが見つかりました。

昨年度の調査では、鎌倉時代の溝や土坑、墓などが見つかりました。調査地周辺に鎌倉時代から江戸時代にかけての集落があったことがわかりました。

今年度は、6箇所の調査を行う予定で、これまでに4箇所の調査を終えています。昨年度と同様に、鎌倉時代から江戸時代にわたる柱穴や土坑が見つかり、土器などが出土しています。土坑の中には、土を採掘したと考えられる土坑群が見つかっていて、江戸時代の土取坑からは、焙烙や施釉陶器、火縄銃の弾などが出土しました。

建物跡もわずかに見つっていますが、密接に立ち並ぶ様子はなく、現在の調査地周辺のように、田畑の縁辺に家屋が点在するような風景が広がっていたものと考えられます。

